

ねぎ味噌

60年ももっと前の田舎の食卓には必ずって言うほどあったのが、懐かしのねぎ味噌です。いまはどのくらいの家庭の食卓に上るのでしょうか？ 若しかしたらご存じない方もいるのでは・・・まだ貧しかった頃の日本、かじかんだ冷たい手、ひび割れた指でもった箸の遣い難かったことなどを、自然と思い出させてくれる忘れられない副菜です。

刻んだ細めのネギがぬらっとしたのに、味噌とおかかを混ぜるだけ。昔のおかかはこんなに小じゃれたのではなくて、かといって手がきの本鰹節でもない、サバ節のような黄色っぽいヤツなんです。でもそれこそが旨さの素だった、まさに「あゝ 思うだに懐かしい」、けれどもあえて戻りたくもないような、100Wの電球から蛍光灯の明かりに替わってゆく、そのころの日本の「ねぎ味噌」です。食事のメにお湯に入れて飲んだりもしました。

